

# AWS Black Belt Online Seminar

## Amazon RDS for Db2 概要

野間 愛一郎

Senior Solutions Architect

2025/10



# AWS Black Belt Online Seminar とは

- ・ 「サービス別」「ソリューション別」「業種別」などのテーマに分け、  
アマゾン ウェブ サービス ジャパン合同会社が提供するオンラインセミナーシリーズです
- ・ AWS の技術担当者が、 AWS の各サービスやソリューションについてテーマごとに動画を公開します
- ・ 以下の URL より、過去のセミナー含めた資料などをダウンロードすることができます
  - > <https://aws.amazon.com/jp/aws-jp-introduction/aws-jp-webinar-service-cut/>
  - > <https://www.youtube.com/playlist?list=PLzWGOASvSx6FlwIC2X1nObr1KcMCBBlqY>



ご感想は X (Twitter) へ！ハッシュタグは以下をご利用ください  
#awsblackbelt

# 内容についての注意点

- ・ 本資料では2025年9月時点のサービス内容および価格についてご説明しています。AWS のサービスは常にアップデートを続けているため、最新の情報は AWS 公式ウェブサイト (<https://aws.amazon.com/>) にてご確認ください
- ・ 資料作成には十分注意しておりますが、資料内の価格と AWS 公式ウェブサイト記載の価格に相違があった場合、AWS 公式ウェブサイトの価格を優先とさせていただきます
- ・ 価格は税抜表記となっています。日本居住者のお客様には別途消費税をご請求させていただきます
- ・ 技術的な内容に関しては、有料の [AWS サポート窓口](#)へお問い合わせください
- ・ 料金面でのお問い合わせに関しては、[カスタマーサポート窓口](#)へお問い合わせください (マネジメントコンソールへのログインが必要です)

# 自己紹介

## 野間 愛一郎 (Aiichiro Noma)

アマゾンウェブサービス ジャパン  
シニアソリューションアーキテクト

製造業のお客様を担当しています  
専門領域は アナリティクス、データベース  
Information Architect

好きなAWSサービスはAWSサポート



# 本セミナーの対象者

- ・ オンプレミスや EC2 などで IBM Db2 Database を運用中の方
- ・ AWS で RDS for Db2 の利用を検討中、または今後検討予定の方
- ・ Amazon RDS for Db2 の概要、機能を押さえたい方

# アジェンダ

1. Amazon RDS for Db2
2. RDS for Db2 のコア機能
3. RDS for Db2 で 変わること・変わらないこと
4. Amazon RDS for Db2 制限事項
5. まとめ

# Amazon RDS for Db2

# Amazon Relational Database Service (RDS)

データベースエンジンが選択可能な  
フルマネージド・リレーショナルデータベースサービス

Amazon Aurora

MySQL

PostgreSQL

Oracle

SQL Server

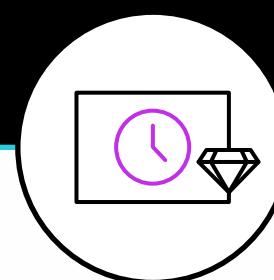
IBM Db2

容易な管理



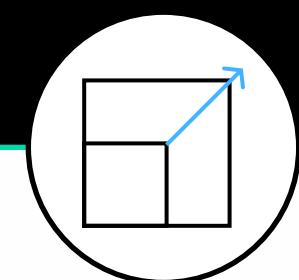
インフラストラクチャの  
プロビジョニング、  
データベースのインストール、  
メンテナンスは不要

可用性と耐久性



マルチAZデータレプリケー  
ション、自動バックアップ、  
スナップショット、  
自動フェイルオーバー

高い拡張性



数クリックでデータベー  
スのコンピュートとスト  
レージを拡張可能；  
アプリケーションのダウ  
ンタイムは最小限

高速で安全



SSDストレージと保証された  
プロビジョンドI/O；保存時、  
転送中のデータ暗号化

# データベース管理のフルマネージド化による運用負荷の軽減

## オンプレミス

アプリケーション最適化
拡張性
高可用性
DB バックアップ
DB パッチ適用
DB インストール/構築
OS パッチ適用
OS インストール
サーバーメンテナンス
ハードウェア資産管理
電源/ネットワーク/空調

## RDBMS on EC2

アプリケーション最適化
拡張性
高可用性
DB バックアップ
DB パッチ適用
DB インストール/構築
OS パッチ適用
OS インストール
サーバーメンテナンス
ハードウェア資産管理
電源/ネットワーク/空調

## RDS/Aurora

アプリケーション最適化
拡張性
高可用性
DB バックアップ
DB パッチ適用
DB インストール/構築
OS パッチ適用
OS インストール
サーバーメンテナンス
ハードウェア資産管理
電源/ネットワーク/空調

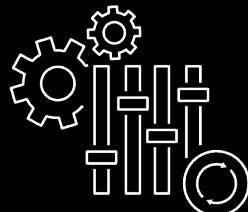
セルフマネージ

AWSマネージ

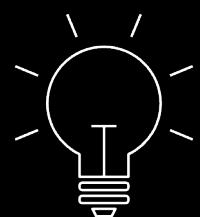
# Amazon RDS for Db2

<https://aws.amazon.com/jp/rds/db2/>

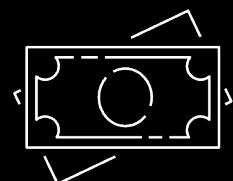
フルマネージドで提供される IBM Db2 サービス



効率性の向上



イノベーション  
に集中できる



コスト削減

プロビジョニング、バックアップ、パッチ適用、監視など、  
Db2のタスクの多くを自動化

AWS DMS や Db2 ネイティブツールを使用して、既存の Db2 for LUW (Linux, UNIX, Windows) データベースを容易に移行

Db2 11.5以降のデータベースを数分で起動し、  
RDSマルチAZデプロイメントで高可用性を実現

Db2 Standard EditionおよびAdvanced Edition が利用可能  
BYOLによるライセンス持ち込みとAWS Marketplace経由の1時間単位の利用をサポート

Db2の機能を活用し、OLTPとアナリティクスワークロードのサポート (Oracle互換性機能を含む)

# RDS for Db2 概要

フルマネージドの IBM Db2 データベースを数回のクリックでセットアップし、運用、拡張が可能



## フルマネージド環境

自動プロビジョニング、モニタリング、スケーリング、パッチ適用

コンピューティングリソースを柔軟に変更可能

ストレージの自動スケーリング

## セキュリティ/コンプライアンス

保存・転送データを暗号化

データベース監査

主要な業界コンプライアンスプログラムへのコンプライアンス



## 柔軟な費用体系

RDSのコンピューティング・ストレージは、前払い料金や長期契約は不要で、従量課金。予約制のオプションも用意されています

Db2のライセンスはBYOLでAWSに持ち込み、既存資産を活用可能



## 可用性と耐久性

Amazon RDS マルチ AZ デプロイメントで高可用性を実現

自動バックアップ、  
スナップショット、フェイルオーバー  
他リージョンへのディザスタリカバリ  
モニタリング機能がビルトイン



## 移行容易性

エンジンはDb2そのまま：使い慣れた機能、ツールを利用

スキーマの変換は不要

AWS DMS や Db2ネイティブツールでのマイグレーションが可能

# RDS for Db2 のコア機能

# RDS for Db2 のインフラストラクチャー 1/2

インスタンスは多様なスペックから選択可能、  
Db2ライセンスの範囲でいつでも変更可能

- インスタンス (メモリやCPUスペックの組み合わせはインスタンスタイプにより異なります)
  - 最小 2 vCPU ~ 最大192 vCPU, 最小 2 GiB ~ 最大 4096 GiB メモリ
  - バースト : t3 (\*CPUのバースト特性に注意)
  - スタンダード : m7i, m6i, m6in, m6idn
  - メモリ最適化 : r7i, r6i, r6in, r6idn, x2iedn
- 制限
  - Db2 のエディションによって利用可能なインスタンスの範囲が異なります
  - Db2 Standard Edition
    - > Db2側の制約として、最大16 VPC\* = 32 vCPU, 最大128 GiB RAMまでの利用

\* 本資料執筆時点では 1 VPC = 1 physical core = 2 vCPUs

# 補足：Db2 エディション毎の選択可能なRDSインスタンス

<https://docs.aws.amazon.com/AmazonRDS/latest/UserGuide/Db2.Concepts.General.InstanceClasses.html>

## Supported RDS for Db2 instance classes for Db2 Standard Edition

The following table lists all instance classes supported for the Db2 Standard Edition of Db2 database version 11.5.9.0. These instance classes are available for both Bring Your Own License (BYOL) and Db2 license through AWS Marketplace.

Instance class type	Instance class
General purpose instance classes with 3rd generation Intel Xeon Scalable processors, SSD storage, and network optimization	db.m6idn.large–db.m6idn.8xlarge
General purpose instance classes powered by 3rd generation Intel Xeon Scalable processors	db.m6in.large–db.m6in.8xlarge
General purpose instance classes	db.m7i.large–db.m7i.8xlarge db.m6i.large–db.m6i.8xlarge
Memory optimized instance classes with local NVMe-based SSDs, powered by 3rd generation Intel Xeon Scalable processors	db.x2iedn.xlarge
Memory optimized instance classes powered by 3rd generation Intel Xeon Scalable processors	db.r6idn.large–db.r6idn.4xlarge db.r6in.large–db.r6in.4xlarge
Memory optimized instance classes	db.r7i.large–db.r7i.8xlarge db.r6i.large–db.r6i.4xlarge
Burstable performance instance classes	db.t3.small–db.t3.2xlarge

## Supported RDS for Db2 instance classes for Db2 Advanced Edition

The following table lists all instance classes supported for the Db2 Advanced Edition of Db2 database version 11.5.9.0. These instance classes are available for both Bring Your Own License (BYOL) and Db2 license through AWS Marketplace.

Instance class type	Instance class
General purpose instance classes with 3rd generation Intel Xeon Scalable processors, SSD storage, and network optimization	db.m6idn.large–db.m6idn.32xlarge
General purpose instance classes powered by 3rd generation Intel Xeon Scalable processors	db.m6in.large–db.m6in.32xlarge
General purpose instance classes	db.m6i.large–db.m7i.48xlarge db.m7i.large–db.m7i.48xlarge
Memory optimized instance classes with local NVMe-based SSDs, powered by 3rd generation Intel Xeon Scalable processors	db.x2iedn.xlarge–db.x2iedn.32xlarge
Memory optimized instance classes powered by 3rd generation Intel Xeon Scalable processors	db.r6idn.large–db.r6idn.32xlarge db.r6in.8xlarge–db.r6in.32xlarge
Memory optimized instance classes	db.r6i.large–db.r7i.48xlarge db.r7i.large–db.r7i.48xlarge
Burstable performance instance classes	db.t3.small–db.t3.2xlarge

※ 2025年9月 時点 Db2 11.5.9.0 用



# RDS for Db2 のインフラストラクチャー 2/2

ストレージボリュームはgp3, io1, io2 Block Expressから選択可能

最大 64 TiB、256,000 IOPs、4,000 MiB/s

サイズの自動拡張に対応、KMSによる暗号化サポート

## General purpose (gp3)

- 幅広いワークロードに最適な、費用対効果の高いSSDストレージ
- 最大 64TiB
- 一桁ミリ秒のレイテンシ
- 最大 64,000 IOPS
- 最大 4,000 MiB/s
- ベースライン・パフォーマンスとして、3,000 IOPS、125 MiBps を提供

## Provisioned IOPS (io1, io2 Block Express)

- 低いレイテンシと高いスループットを必要とする I/O 集約型ワークロード要件を満たすように設計されたSSDストレージ
- 最大 64TiB
- io1: 一桁ミリ秒のレイテンシ
- io2 Block Express: ミリ秒以下のレイテンシ
- 最大 256,000 IOPS (\*io2 Block Expressは小さいボリュームにおいて割り当て可能なる IOPSがより大きい)
- 最大 4,000 MiB/s

補足) gp3, io1, io2 Block Expressとともに、インスタンスの種類によりストレージの帯域をどこまで利用できるかが決まります。また、io2 Block Expressが利用可能なリージョンは以下の資料を確認してください。

[https://docs.aws.amazon.com/AmazonRDS/latest/UserGuide/CHAP\\_Storage.html](https://docs.aws.amazon.com/AmazonRDS/latest/UserGuide/CHAP_Storage.html)

# RDS for Db2 の料金

RDSインスタンス、およびEBSストレージについては、前払い不要・従量課金で提供されます

- ・ インスタンスは、1秒単位の料金（ただし最小でも10分間分は料金が発生します）
- ・ 1年間、3年間という期間で利用をコミットいただくことで料金が下がる Reserved Instance も利用いただけます

料金はスペックにより異なります。詳細は以下ページを参照してください

<https://aws.amazon.com/jp/rds/db2/pricing/>

BYOLによる持ち込みとAWS Marketplaceでの1時間単位の利用に対応しています

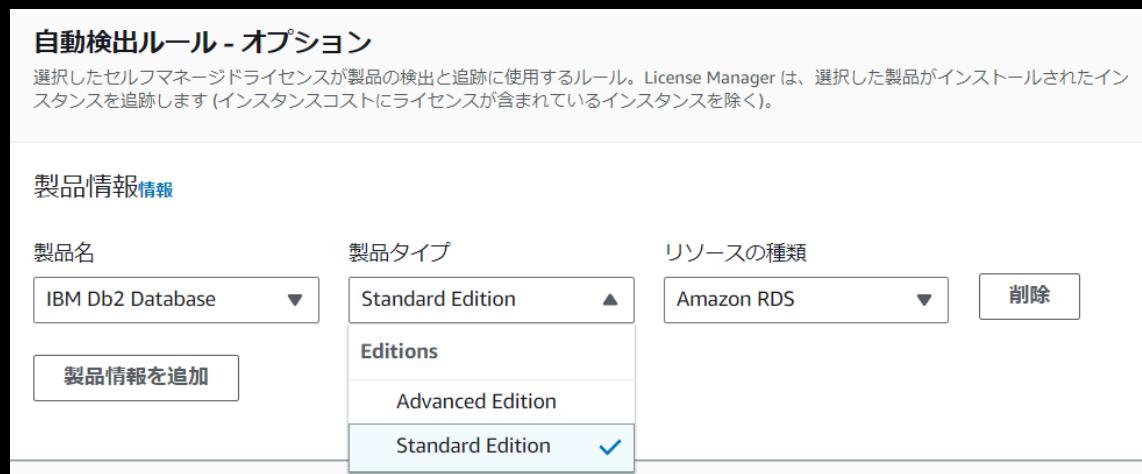
- ・ BYOLの詳細は以下IBMのページをご確認ください。  
本資料執筆時点では  $1 \text{ VPC} = 1 \text{ physical core} = 2 \text{ vCPUs}$  と記載されています  
(Hyperthreading = ONのインスタンスにおいて)  
[https://www.ibm.com/software/passportadvantage/eligible\\_public\\_cloud\\_BYOSL\\_policy.html](https://www.ibm.com/software/passportadvantage/eligible_public_cloud_BYOSL_policy.html)
- ・ AWS Marketplaceでのサブスクリプションで1時間単位での利用が可能  
<https://aws.amazon.com/jp/blogs/ibm-redhat/rds-for-db2-with-aws-marketplace-license/>

# 補足：BYOLでのライセンス管理

- RDS for Db2 のBYOL利用においては、ライセンス管理のため、AWS License Managerへの登録が必要です
- ILMT (IBM License Metric Tool) の導入は不要です
- AWS License Managerには自動検出ルールがあり、これを有効にすることで自動的にライセンス利用量が記録されます

詳細は以下を参照

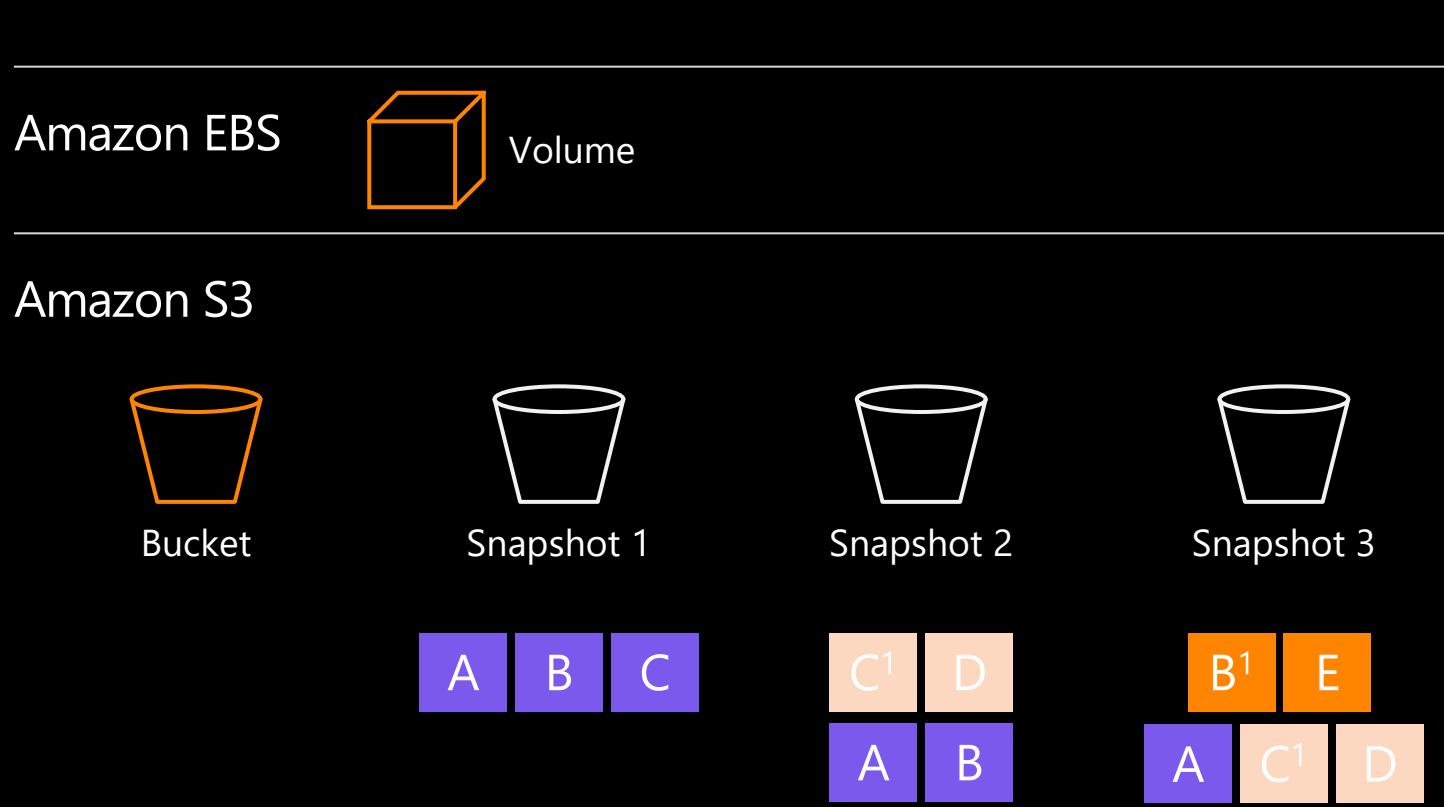
<https://docs.aws.amazon.com/AmazonRDS/latest/UserGuide/db2-licensing.html>



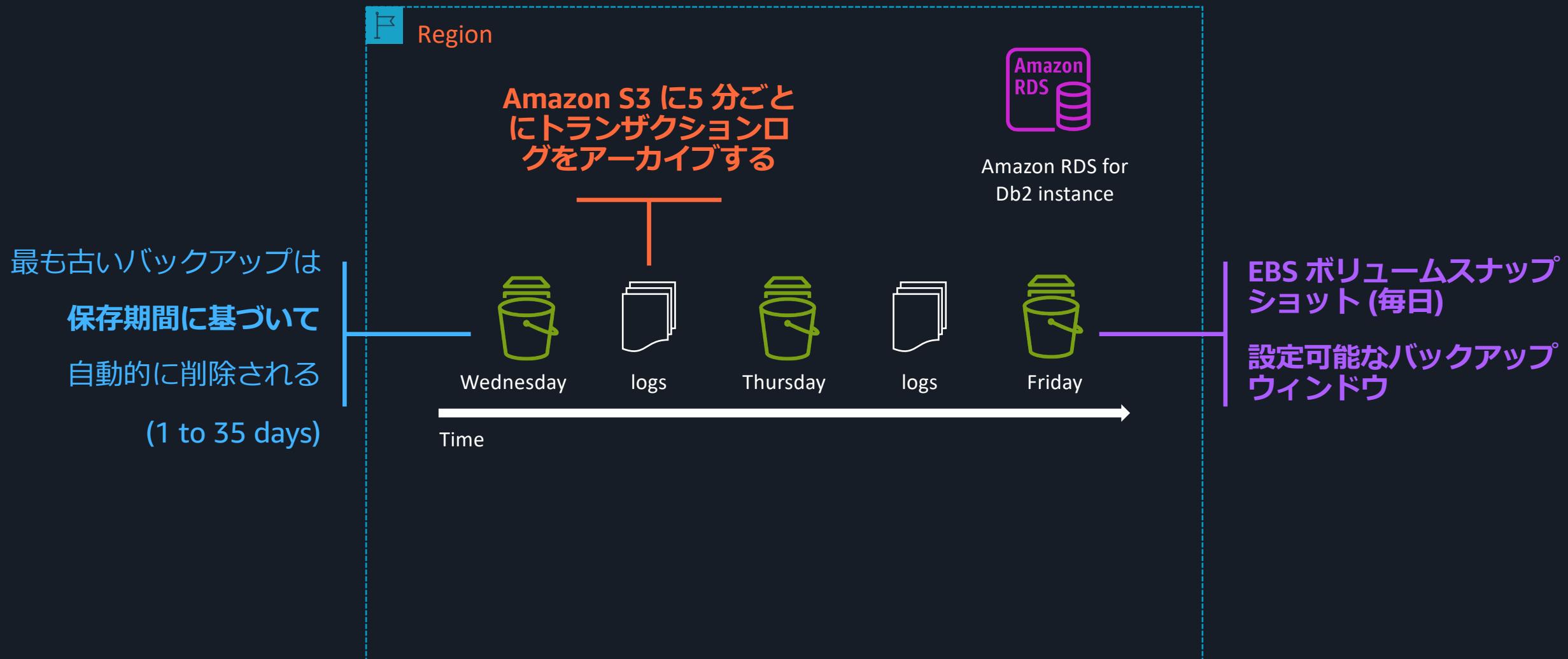
# Snapshot & Restore – バックアップ/リストア機能がビルトイン

## バックアップ&リストアの仕組みがビルトイン

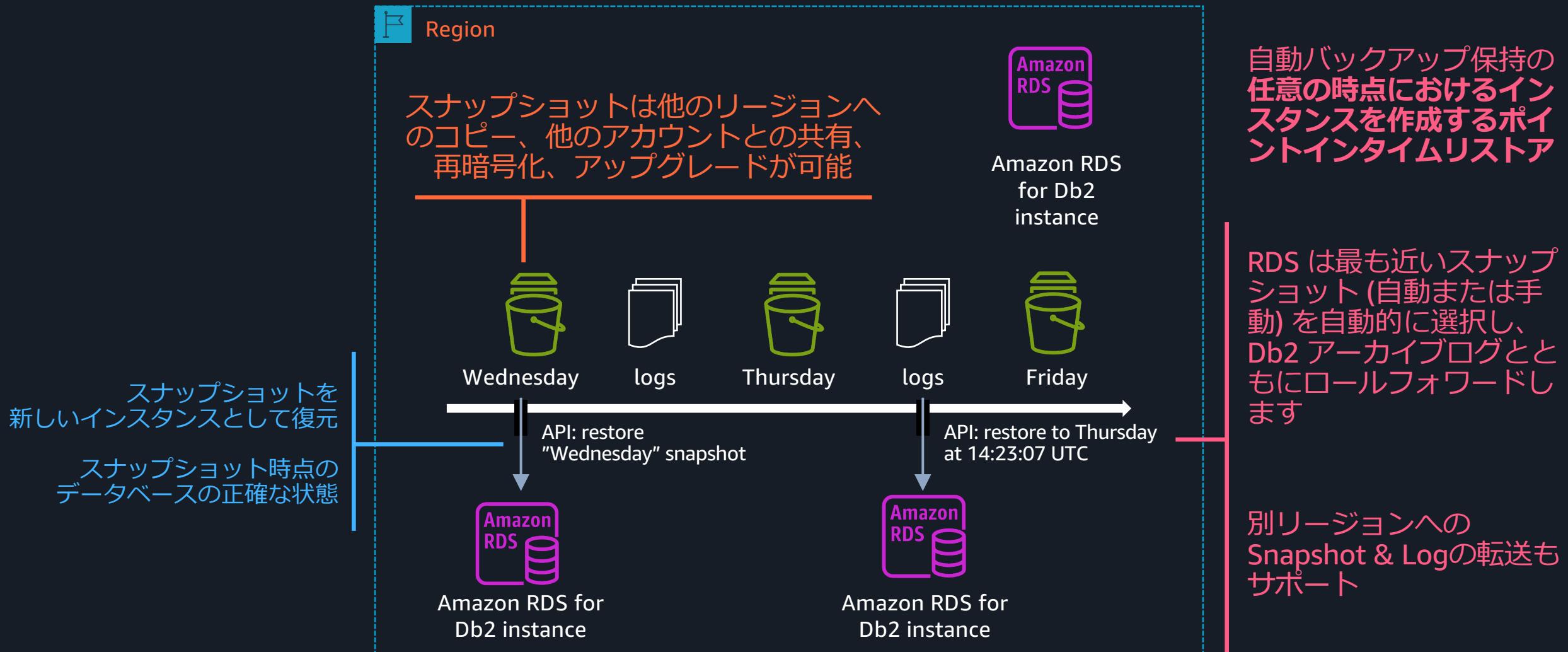
- S3への保存で 99.99999999% の耐久性を提供
- 常にインクリメンタル（差分）で保存
- 暗号化保存サポート (KMS)
- 自動Snapshot (1~35日間)
- 手動Snapshot (任意の期間)
- アカウント間、リージョン間でのコピーが可能



# Amazon RDS による自動Snapshot(自動バックアップ)



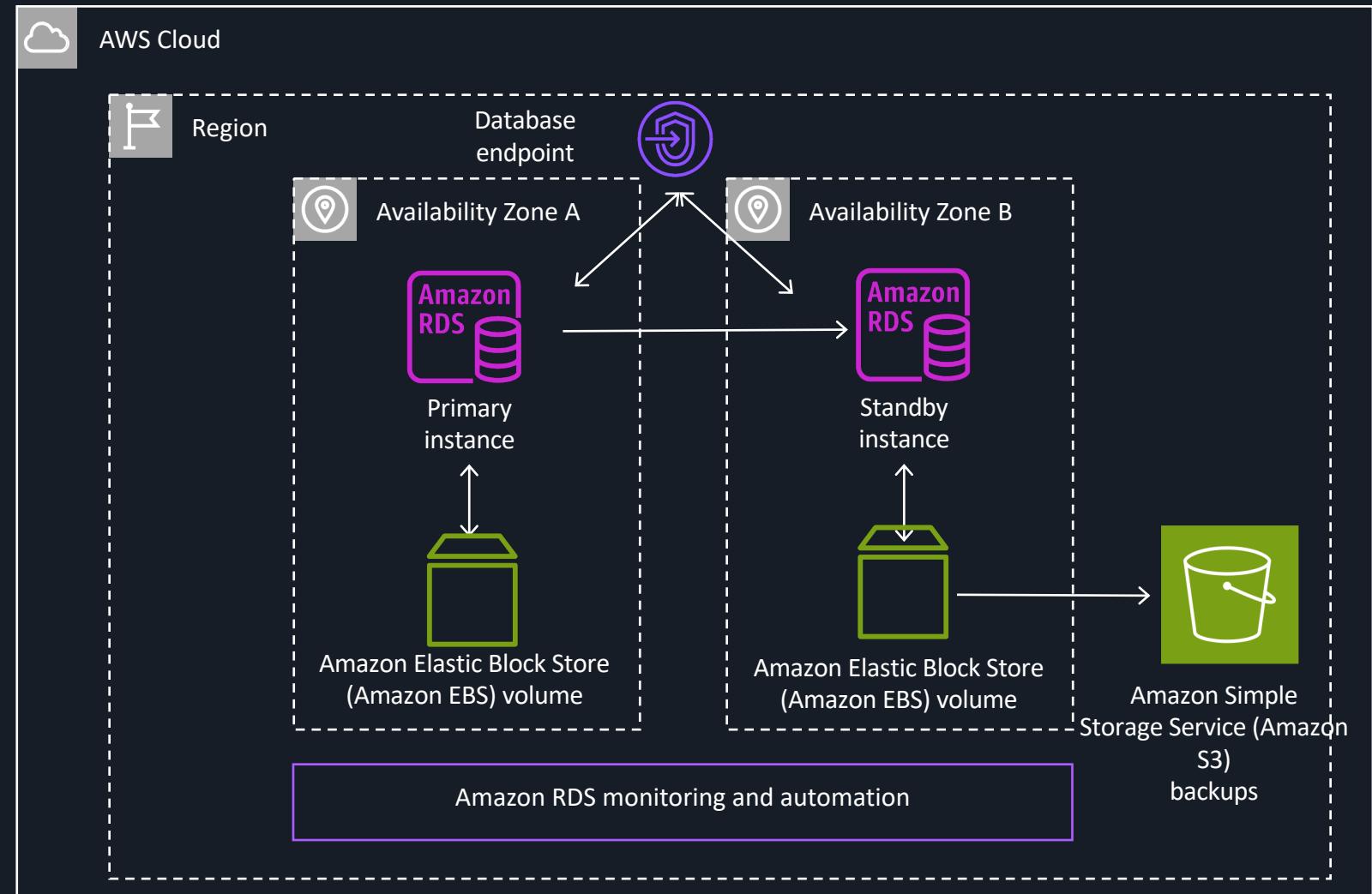
# Snapshot/Point-in-time リストア



# RDS Multi-AZ による高可用性(HA)構成が利用可能

## 主な特徴

- ・ 数クリックで構築
- ・ 2つのアベイラビリティゾーン (AZ) にまたがった配置
- ・ AZ間でストレージの内容が自動的に同期
- ・ 障害の検知と自動切換 (DNSベース)
- ・ ユーザーによる手動切り替えも可能



# RDS Multi-AZ デプロイメント：補足

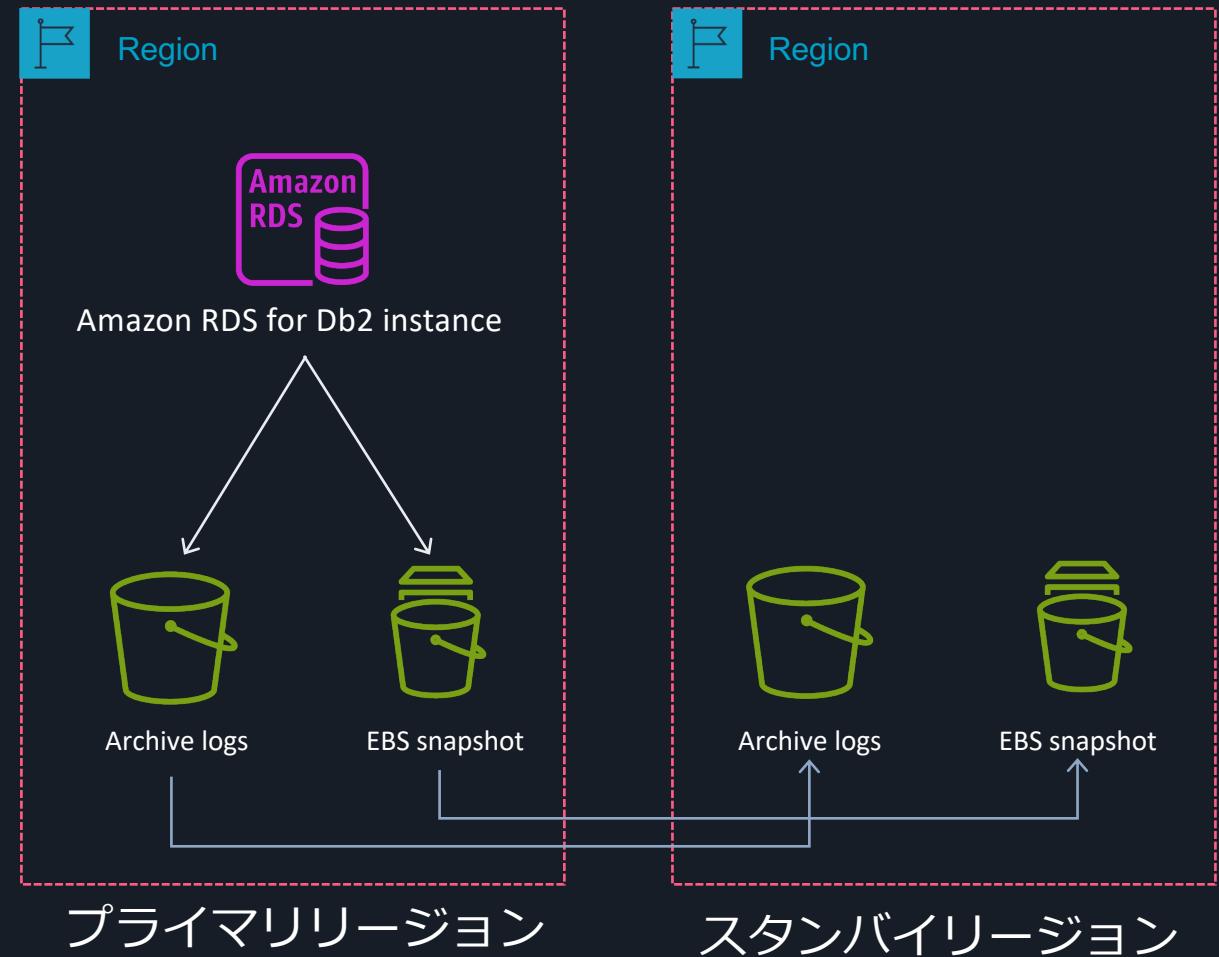
- Multi-AZ デプロイメントはDb2のHADRではなくRDS独自の技術で実現されています
- 状況監視や切り替えといったHA管理機能がビルトインなので、ユーザー側で構築する必要がありません
- Multi-AZ は物理的に距離が離れた、異なるデータセンター間で構成されます  
(同一データセンター内の高可用性構成ではありません)
- 待機側 (Standby) インスタンスにはSQLアクセスができません
- Db2のライセンスルールについて不明点がある場合は必ずIBMにお問い合わせください



# クロスリージョン・自動バックアップによるディザスタリカバリー(DR)

## 主な特徴

- ・本番リージョンの自動スナップショットとアーカイブログをターゲットリージョンに自動的にレプリカします
- ・スタンバイリージョンでのポイントインタイムリカバリー (PiTR) が可能
- ・スタンバイリージョン側はストレージ保存料金のみであり、安価に準備可能
- ・東京リージョン - 大阪リージョン間でのDRを容易に実現 (他国のリージョンとも可能)

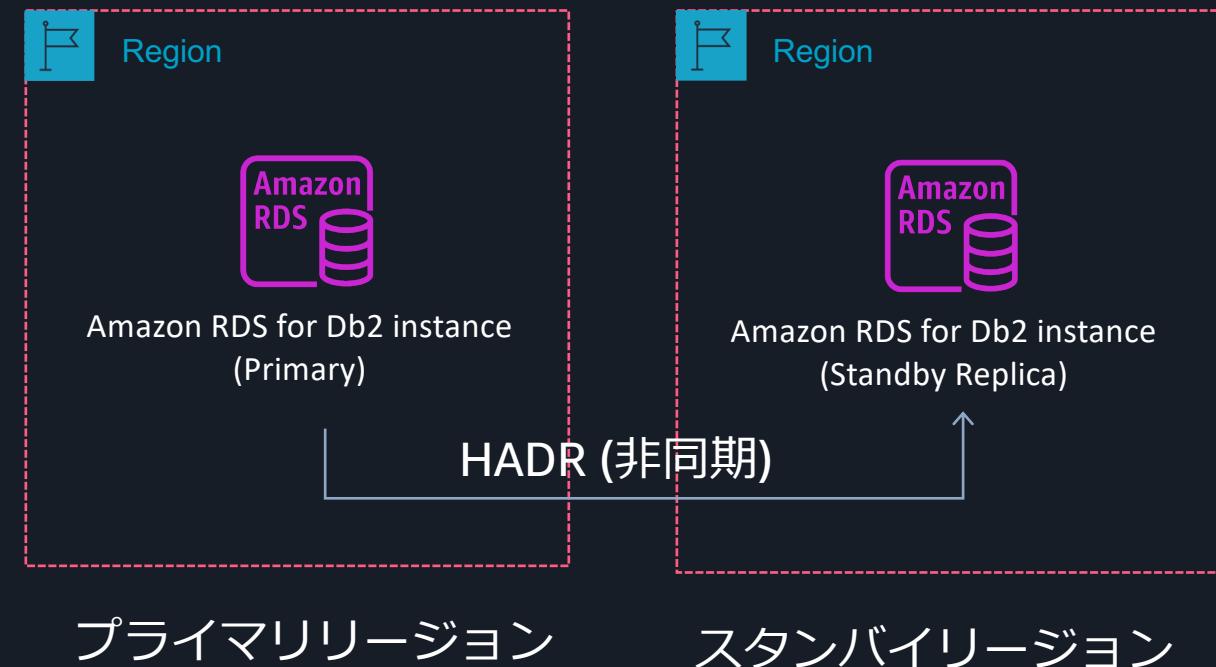


[https://docs.aws.amazon.com/AmazonRDS/latest/UserGuide/USER\\_ReplicateBackups.html](https://docs.aws.amazon.com/AmazonRDS/latest/UserGuide/USER_ReplicateBackups.html)

# クロスリージョンスタンバイレプリカによる より短いRPOのディザスタリカバリー(DR)

## 主な特徴

- ・本番リージョンのインスタンスから、HADRにより、スタンバイリージョンのインスタンスに非同期レプリケーション
- ・クロスリージョン自動バックアップよりも、短いRPO、RTOを実現
- ・スタンバイ側へのSQL発行は不可（SQLアクセス不可）
- ・スタンバイ側のインスタンスに必要なDb2ライセンスは、インスタンスサイズに関わらず、2 vCPU分 (1 VPC)



参考) <https://aws.amazon.com/jp/blogs/database/configure-amazon-rds-for-db2-standby-replicas-for-high-availability-and-faster-disaster-recovery/>

参考) IBM Db2 ドキュメントのHADR <https://www.ibm.com/docs/en/db2/11.5.x?topic=server-high-availability-disaster-recovery-hadr>

# リードレプリカ

## 主な特徴

- 本番リージョンのインスタンスから、HADRにより、同リージョンもしくは別リージョンへの非同期リードレプリカを最大3台まで構成可能
- リードレプリカ側では読み取りSQLを実行可能
- リードレプリカ側のRDS for Db2 では稼働しているvCPU分のDb2ライセンスが必要



参考) <https://docs.aws.amazon.com/AmazonRDS/latest/UserGuide/db2-replication.html>

# オブザーバビリティとモニタリング

ホスト (RDSインフラ) 側はAWS側のビルトイン機能 (CloudWatch) でモニタリングが可能  
DBレベル (DB内部) は、Db2関連ツールをそのまま活用してモニタリングが可能

## Amazon CloudWatch Metrics



コア (CPU、メモリ) と  
トランザクション (スループット、  
レイテンシー) メトリクスの監視

## Enhanced Monitoring



データベース固有のメトリクスを  
1 秒の精度で追加

## IBM dsmtop



コンソールベースの  
軽量モニタリング

## IBM Data Management Console



Db2パフォーマンスの管理、監視、  
管理、最適化

Host Monitoring

Database Monitoring

# RDS for Db2 で 変わること・変わらないこと

# インフラがAWSに変わる = AWSの特長を活かす

## AWSの特長

- ・ いつでも変更できる環境：設計に時間を掛けすぎない・試す
- ・ マネージドサービス：十分にテスト・運用されてきたインフラサービスを活用し、人間にしかできない部分に注力
- ・ 自動化できる環境：手作業の排除により、迅速化・人不足への対応
- ・ 複製を作ることが容易：本番環境のRDBをコピーして、検証
- ・ 世界中のリージョンを利用可能：DRや世界展開が容易

# RDS for Db2 で変わること・変わらないこと

RDS for Db2のエンジンはIBM Db2そのものであり、SQL実行の観点では変わりません。  
しかし運用系の機能・オペレーション方法は設計時に検討・確認が必要です

例)

- OSのroot権限は与えられず、OSにログインできない
- 管理コマンドの実行方法が一部異なる
- バックアップ&リストアがRDSネイティブのSnapshot & Restore になる
- ハイパーバイザーレベルのモニタリングは、CloudWatchで取得する 等...

# RDS for Db2 内部のユーザと権限

- RDS master user はDBADM権限が付与されています
  - インスタンスレベルの管理者 (SYSADM) ではありません
  - 通常の利用にはほぼ問題ありませんが、インスタンスレベルの操作を運用として実行している場合には修正が必要です (例: db2stopできない)
- Db2内のユーザ/グループの操作には、専用のプロシージャを利用します
  - `rdsadmin.add_user`, `rdsadmin.list_users`, `rdsadmin.add_groups` 等
  - 具体的な手順は以下のを参照
    - <https://docs.aws.amazon.com/AmazonRDS/latest/UserGuide/db2-performing-common-system-tasks-db-instances.htm>

# RDS for Db2 の運用まわり

- 接続時のAuthenticationはSERVER\_ENCRYPTを指定が必須
  - カタログ : db2 catalog database ... authentication SERVER\_ENCRYPT \*1
  - JDBC: encryptionAlgorithm=2, securityMechanism=7 を指定 \*2
- DBパラメータの更新 => rdsadmin.update\_db\_param
- 表スペースの作成 => rdsadmin.create\_tablespace
  - 自動ストレージ (AUTOMATIC STORAGE)のみサポート : 初期サイズや増分サイズを指定
  - 4KB/8KB/16KB/32KBページサイズに対応 (\*3: 32KB利用の際はドキュメントの注意事項を確認)
- バッファープールの作成 => rdsadmin.create\_bufferpool
- 監査ログ(audit log)の設定 => rdsadmin.configure\_db\_audit
- タスク管理 (コマンドの実行状況確認) はUDFを利用 \*4

\*1 <https://docs.aws.amazon.com/AmazonRDS/latest/UserGuide/db2-connecting-with-clp-client.html>

\*2 <https://docs.aws.amazon.com/AmazonRDS/latest/UserGuide/db2-connecting-with-dbeaver.html>

\*3 <https://docs.aws.amazon.com/AmazonRDS/latest/UserGuide/db2-sp-managing-databases.html>

\*4 <https://docs.aws.amazon.com/AmazonRDS/latest/UserGuide/db2-udf-checking-task-status.html>

# 文字コードサポート

Db2 は多くの文字コード、テリトリーをサポートするRDBです。最近は標準の文字コードがUTF-8になりつつありますが、長く利用されている環境では、IBM-943 (Shift-JIS)が使われていることがあります（特にAIX、Windows環境）

RDS for Db2でも文字コードの指定は可能ですが、以下の注意点があります

- 管理コンソール/AWS CLIから、インスタンスと同時に初期データベースを作成した場合、文字コードはUTF8、テリトリーはUSで作成される
- IBM-943等、別文字コードやテリトリーを指定したい場合は、初期データベースの作成をせず、管理データベース(rdsadmin)からストアドプロシージャを用いてデータベースの作成を行う
  - 管理コンソールからインスタンスを作成する場合でもデータベース名を空欄にすることで、初期データベースの作成をスキップできます

# パラメータ設定

- DB Config (DBレベルの設定)
  - `call rdsadmin.update_db_param (...)`
- DBM Config (インスタンスレベルの設定)
  - パラメータグループで設定 (db2-ae-11.5 or db2-se-11.5)
- レジストリ変数 (OSレベルの設定)
  - パラメータグループで設定 (db2-ae-11.5 or db2-se-11.5)

Parameter group details	
Parameter group family	DB family that this DB parameter group will apply to
db2-ae-11.5	
Group Name	Identifier for the DB parameter group
db2pg1	
Description	Description for the DB parameter group
my db2 parameter group	



# RDS for Db2 で変わること・変わらないこと

運用領域	変わること	変わらないこと
インフラ管理	<ul style="list-style-type: none"><li>OSパッチの自動適用</li><li>リソースのスケーリング簡素化</li><li>ストレージの自動拡張</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>Db2インスタンスパラメータ調整</li><li>バッファプール最適化</li><li>ストレージグループ設計</li></ul>
可用性対策	<ul style="list-style-type: none"><li>マルチAZ自動構成</li><li>自動フェイルオーバー</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>フェイルバック手順</li><li>DR演習の実施</li><li>レプリケーション設計</li></ul>
バックアップ/復旧	<ul style="list-style-type: none"><li>自動スナップショット</li><li>クロスリージョンコピー</li><li>PITRの簡素化</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>ログアーカイブ管理</li><li>リカバリパス制御</li><li>バックアップ検証</li></ul>
モニタリング	<ul style="list-style-type: none"><li>CloudWatchメトリクス</li><li>Enhanced Monitoring</li><li>Performance Insights</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>Db2スナップショット収集</li><li>SQLチューニング手法</li><li>実行計画分析</li></ul>
セキュリティ	<ul style="list-style-type: none"><li>VPC/サブネット設計</li><li>KMS統合暗号化</li><li>セキュリティグループ</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>Db2認証設定</li><li>オブジェクト権限管理</li><li>カラムレベル暗号化</li></ul>

# Amazon RDS for Db2 制限事項

# RDS for Db2 で利用できない機能・制約

- マスターユーザーの SYSADM、SECADM、SYSMAINT アクセス
- 1 つのRDSインスタンスに作成できるのはDb2 1インスタンスのみ
- Db2 Native encryption (EBSボリュームの暗号化は可能)
- C/C++, COBOL 外部プロシージャ (Javaは利用可能)
- Heterogeneous federation for Db2
- Db2 pureScale, Db2 Datawarehouse Edition (DPF)
- External table

その他の制限事項や詳細はこちらを参照

<https://docs.aws.amazon.com/AmazonRDS/latest/UserGuide/Db2.Concepts.FeatureSupport.html>

# まとめ

- Amazon RDS for Db2 は、Amazon RDS で提供されるDBエンジン
  - フルマネージドサービス
  - 高可用性
  - セキュリティ & コンプライアンス
  - RDS for Db2 で変わること・変わらないこと・制約

# 情報

- Amazon RDS for Db2 ホームページ <https://aws.amazon.com/jp/rds/db2/>
- Amazon RDS for Db2 ドキュメント  
[https://docs.aws.amazon.com/AmazonRDS/latest/UserGuide/CHAP\\_Db2.html](https://docs.aws.amazon.com/AmazonRDS/latest/UserGuide/CHAP_Db2.html)
- Amazon RDS for Db2 の利用を開始する (RDS for Db2 リリース紹介のブログ)  
<https://aws.amazon.com/jp/blogs/news/getting-started-with-new-amazon-rds-for-db2/>
- RDS for Db2 でトラブルシューティングに必要な情報を収集する方法  
<https://aws.amazon.com/jp/blogs/news/rds-for-db2-get-info/>
- AWS Pricing Calculator (AWSサービスの料金計算の支援) <https://calculator.aws/>
- AWS Marketplace 経由での RDS for Db2 の利用 <https://aws.amazon.com/jp/blogs/ibm-redhat/rds-for-db2-with-aws-marketplace-license/>
- (IBMサイト) IBM Db2がAmazon RDSで利用可能になりました  
<https://www.ibm.com/blogs/solutions/jp-ja/ibm-db2-is-now-available-on-amazon-rds/>
- (IBMサイト) Eligible Public Cloud BYOSL Policy  
[https://www.ibm.com/software/passportadvantage/eligible\\_public\\_cloud\\_BYOSL\\_policy.html](https://www.ibm.com/software/passportadvantage/eligible_public_cloud_BYOSL_policy.html)
- (IBMサイト) RDS for Db2 のBYOLに必要になる IBM Customer IDとSite IDの確認方法  
<https://www.ibm.com/support/pages/node/7116085>

# Thank you!